

受験番号	
------	--

令和8年度
地学

問題		
1		点

受験番号	
------	--

令和8年度

地学解答紙

(4枚のうち, その1)

1

(問1)

ア	イ	ウ	エ	オ
大陸移動説	パンゲア	海洋底拡大説	海溝	プレートテクトニクス

--	--

(問2)

90°

--	--

(問3)

②③

--	--

(問4)

アルプス山脈やヒマラヤ山脈の形成は、収束する境界で起る。
2つの大陸間の海のプレートがすべて沈み込んでしまうと、大陸と大陸の衝突が起り隆起して大山脈が出来る。

--	--

受験番号

令和8年度
地学

問題

2

点

受験番号

令和8年度

地学解答紙

(4枚のうち, その2)

2

(問1)

(あ)

--	--

(問2)

(い)

--	--

(問3)

※当日の問題訂正により解答不要な問い

--	--

(問4)

アンモナイト(C種)

--	--

(問5)

造礁サンゴは、約7000万年前に大きな地殻変動や洪水、津波など環境変化がほとんどない安定した気候のもと生息した。被子植物が進化する陸地から近い場所で、その葉や枝、種子などが流れ込む、温暖できれいな浅海であった。

--	--

受験番号	
------	--

令和8年度
地学

問題			
3			点

受験番号	
------	--

令和8年度

地学解答紙

(4枚のうち, その3)

3

(問1)

あ	い	う	え	お
70	97	0.01	35	2000

--	--

(問2)

①	②
MgCl ₂	KCl

--	--

(問3)

③	④	⑤
表層混合層 (混合層)	水蓋層 (主水蓋層)	深層

--	--

(問4)

北太平洋	南インド洋	北大西洋
時計回り	反時計回り	時計回り

--	--

(問5)

(ア) 熱塩循環 (深層循環)

--	--

(イ) 極域の海水は、水が凍るため塩分が高くなり、かつ低温であるため密度が大きくなり沈降し、鉛直方向の循環が生じる。

4

(問1)

(ア)	②	
(イ)	角度C	32.8°
	角度D	23.4°

--	--

(問2)

(ア)	歳差運動
(イ)	地球自転軸の傾きおよび公転軌道の離心率、歳差運動による太陽と地球の距離は周期的に変化しており、その結果地球が太陽から受け取る熱が変化し、気候を周期的に変化させている。

--	--

(問3)

恒星までの距離	③
<p>(計算過程)</p> <p>絶対等級をM、実視等級をm、距離をdとすると</p> $M = m + 5 - 5 \log d$ <p>が成り立つ</p> <p>M = -5.2, m = 1.0 を代入して</p> $-5.2 = 1.0 + 5 - 5 \log d$ $5 \log d = 5.2 + 1.0 + 5 = 11.2$ $\log d = 2.24$ $d = 10^{2.24}$ $= 10^{0.24} \times 10^2$ $\approx 170 \text{ パーセク}$	

--	--

